

防災減災・災害復興に関する学術連携委員会の後継体制について

現行の課題別委員会を名称変更した上で24期末まで延長(委員会案)

2017年12月14日
防災減災・災害復興
に関する学術連携委
員会で検討したもの

課題別委員会として名称変更して継続
防災減災学術連携委員会

平時の学会ネットワーク

- ・シンポジウムの開催
- ・防災学術連携体との連絡会
- ・防災推進国民会議 参加

緊急事態

- ・緊急事態対策委員会と連携
- 政府・防災学術連携体と連携

構成: **副会長1名及び19名以内の会員・連携会員**

副会長及び1部、2部、3部の会員・連携会員で構成
(現行の9名の委員をもとに、11名以内の委員を追加する)

(例えば)

- 〇〇(副会長)
 - 〇〇(法学)、〇〇(社会)
 - 〇〇(医学)、〇〇(看護)、〇〇(環境)
 - 〇〇(地震)、〇〇(宇宙)、〇〇(海洋)
 - 〇〇(防災)、〇〇(計画)、〇〇(河川)
 - 〇〇(地盤)、〇〇(構造)、〇〇(減災)...
- オブザーバー: 防災学術連携体幹事

防災学術連携体

防災に関わる学会ネットワーク

- ・シンポジウムの開催(日本学術会議と共催)
- ・防災総合ポータルサイトの運用
- ・ニュースメール、パンフレット作成
- ・緊急時には学会間・学術会議・政府の連絡網
- ・防災推進国民会議を通して関連機関と交流

防災減災学術連携委員会と
防災学術連携体の連絡会
56学会(各学会2名防災連携委員)
* 理学・工学系学協会連絡協議会を参考、年1回程度

防災学術連携体 全体会
各学会の防災連携委員2名+学術会議から特任会員

防災学術連携体 幹事会20名

事務局(主担当学会)

事務局支援チーム

* 大地震・台風・豪雨災害等に対応する防災関係の委員会には、継続性と即応性と分野横断性が求められる。課題別委員会は「時々課題のうち特に重要な課題を各期の中で扱う」委員会であり継続性に問題があるが、期が変わるたびに同委員会を立ち上げることで対応したい。緊急事態の即応性は課題別委員会に副会長に参加していただくことで確保したい。分野横断性は、1部、2部、3部から会員・連携会員が参加することで確保したい。

今後は、会長・副会長等により、当委員会の設置期間の延長をご検討頂きたい。